

## 一期一会

田村雅子

学園長先生、先生とお別れの十二月二十九日は、師走の冷たい風が吹くこともなく、やわらかな陽ざしのあたたかな日となりました。

先生が、日曜日も祝日もなく、三百六十五日、質素というより、粗末な小さな木造住宅から朝は八時前には自分で作られた質素なお弁当と、その日の中国新聞、無造作に結び付けられた幾本かの学園の鍵束、それ等三品の入った手下げ袋を持って門を入られ、夜の十時過ぎまで執務されておられた、その正門までの三〇〇メートル余りの道路は、その日、花輪と、会葬の人の列でいっぱいになっておりました。

読経の流れる間中、私は大学の事務職員としての私に、先生からいただいたいたびかのお叱り、注意の厳しさに震え上がったこと、また、一介の主婦としての私に、学園長でないひとりのおばあちゃんとして、物を生かして使う生活の知恵、術わざを教わり、やさしい言葉をかけてくださったことなどを思い出して、囀りをはばからず嗚咽してしまいました。

### 三、学園運営の寛と厳

先生は、生前、日課のように、施設課の作業用の軽トラで、平田課長、大越次長、渡辺課長が交替で運転する助手席に、わら草履に、白の割烹姿で乗り込み、高校・大学などの学園内整備に陣頭指揮のパトロール（横文字は嫌いですとお言葉が飛んできそうです）巡回をされていらっしやうた。あのお姿が目には浮かんで参ります。

でも、その日は、先生は、お写真で学長先生に抱かれ、恵美子先生と御一緒に、車でゆつくりと、特に心にかけておられた「淳風寮」「育心寮」との間の坂道を高校へと上<sup>のぼ</sup>って行かれました。眼下に、先生が女手一つ、一代で築かれた立派な大学・短大の校舎・音楽棟・総合教育研究棟・美術棟が、左手には建築中の体育館・サークル棟、右手には新築成ったばかりの幼稚園など、どんな思いで御覧になられたのでしょうか。そして車は、また、ゆつくりと下って大学内を静かに一周され、先生に御縁をいただいた多くの人々に見送られ、正門を出て行かれました。

学長先生や恵美子先生も、それぞれの思いで改めて学園を御覧になられたのではと、胸詰まるものがありました。今、私は、私にだけいただいた先生のお言葉のいくつかを思い出しております。

十三年前、事務職員として採用していただくための面接のときでした。

「うちの仕事は力仕事も多く、きついんです。机や椅子を運んだりする作業の方が多ですが、入ってから事務で採用してもろうたのに、違うとった、ということになる前になるときますで。それを承知なら来てもろうてもええんですよ。なんなら最初は続けられるかどうかパートで来てみますかの？」と聞かれ、あわてて「いいえ、本採用でお願い致します。」と申し上げました。するとやさしい表情で「仕事で楽なものはありませんけえの。うちの仕事より、その辺りにあるスーパの方が楽かもしれませんで。ほいじゃが嫌いなお客にも笑顔で、いらっしやいませ」というのも楽じゃないけえね。ハハハハハ！」と笑われ四十二才の私が採用されたのです。

それから二年くらい経ったところでしようか。夕方、別館五号（当時倉庫代わりに使っていた。）の戸締りをしておくように頼まれたのです。私はしっかりと施錠して帰宅したのですが、翌早朝呼び出され「あんたは、いうたことをせんのじゃね。私のいうたことがきけんのなら辞めてもろうてもようありますで。」「先生にいわれてすぐに戸締りいたしました。」と全身硬直して申しました。「アンタは私にくちごたえをするんですか。」強い語調ときびしい顔の表情に、私は次の言葉も出せず黙って頭を下げるしかありませんでした。

その夜は辞めてしまおうかと悩み、里の両親に相談いたしました。父は軍人でしたので軍隊生活の例をとり上げ「夕飯は食べさせてもらえなかつたとしても、上官が『おまえに夕飯は食べさせた』といわれれば『ハイ！』いただきます。」と答え、上官には従うべきであると教えられていた。」と諭されました。納得はいかないまま、「ハイ」と従うことを教わったのです。

また、ある時「学生が、貴女のことを『先生』と呼ぶでしょうが、貴女は先生じゃありませんよ。うちには立派なその道の専門の先生がいっぱいおられます。貴女は女性の先輩として、母親として学生に接してくださいよ。私は貴女に『教育者』になつてくださいたいことをお願いしますよ。」と申されたのです。『教育者』一番難しいと思いましたが、母親役ならと安易に解釈することにいたしました。初教のお手伝い、就職課での学生の相談を受けてきたつもりでした。ところが母親役の私と、チューターの思いの違いから「学生の指導はチューターがするから、貴女は事務だけをしなさい。」と忠告を受けました。そのことを先生にお話したとき「遠い所から縁があつて大切なお嬢さんを預かっているのですから、貴女は十分に母親役をしてやってくださいよ。教育も、しつても、しつづけることですぞ。」こんなことがあつたからでしょうか、先生は私に「一期一会」の短冊を書いてくださいました。

### 三、学園運営の寛と厳

今、私の一番好きな、大切な言葉となって我が家の客間を飾っております。先生との御縁も一期一会になってしまいました。

これからも人との縁を大切に、健康で働かせていただこうと思っております。  
黄泉の国からお守りくださいませ。